

委員会視察成果報告書

令和5年10月25日

犬山市議会議長

議員名 久世尚祐

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和5年10月3日(火) ~ 令和5年10月4日(水) (泊2日)
(2) 視察地	新森原、藤崎町、十和田市
(3) 視察の種類	常任・特別委員会 (民生文教委員会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	別紙
(5) 犬山市に 対する提言	別紙 別紙



視察地：藤崎町社会福祉協議会（青森県藤崎町）

視察日：令和5年10月3日

視察テーマ：社会福祉協議会の経営再建について

【視察内容】

藤崎町はりんご、野菜、にんにく、農業のまち。

「ふじりんご」の名前の由来にもなっている。

ここを視察先にしたのは社会福祉協議会（社協）の大改革を成功させた町であったため。犬山市社協は年間1000万円程度の赤字が続き、黒字化は見通せない状態。基金も枯渇しつつあり、抜本的な経営改革が待たなしの状態になっている。

今年度の民生文教委員会の重点テーマとして、社協の経営改善に取り組むこととしている。

藤崎町社協の改革が始まったのは2015年頃。立役者である成田全弘事務局長の話聞いてきた。

成田氏は22歳で社協に入り、25歳から事務局長を30年以上続けている。

赤字経営が続き、今後6年間で1億1千万円の赤字が出るという試算。

このままでは社協が成り立たなくなってしまうという危機感があった。

やる時は一気にやらねば、と決意。

「地獄を見た」とのこと。

藤崎町は民間の社会福祉施設が多い地域で、競争は激しく、介護保険料は全国5位の高さ。

大学の教授からも「辞めたら」と勧められた。

しかしもし民間の介護福祉施設が成り立たなくなるような事態になれば、誰も介護福祉サービスを提供できなくなってしまう。

その時の最後の砦が社協。

みんな「社協は潰れないでしょ」と思っているが、そんなことはない。

経営コンサルに分析してもらい、人件費比率が高いことが判明。

社労士に依頼し、人事考課制度の改訂を断行した。

人件費削減を目的とするのではなく、正当な評価をするという方向性。

保険外サービスにも力を入れた。

国にも働きかけを強め、「寒冷地加算」を獲得した。

制度改変時など、取れる加算は積極的に取りに行く。

介護職だけでなく事務職にも人事考課制度を導入し不公平性を解消。

それ以降、黒字経営が続き、経営改善の目処がついた。

【犬山市への提言】

藤崎町社協の改革が成功したのは、成田氏という熱意に満ちた中心人物がいたことが大前提ではあるが、ポイントは人事考課制度の改訂だった。

人事考課制度の改訂は「不利益変更」になるかどうか分かれ目。

藤崎町社協ではそうならないように制度設計していたことがわかった。

不利益変更に当たると労使合意が必要になるなど非常に大変で、組織が大きくなればなるほど時間がかかり、頓挫しやすい。

犬山市社協でも「職員一人ひとりの意識改革」が必要とされているが、制度としてそれを促進する仕掛けが必要だろう。

人事制度を変える場合、専門知識を持った社労士の関与は必須。犬山市社協でも検討すべきだ。

視察地：青森県十和田市

視察日：令和5年10月4日

視察テーマ：十和田市現代美術館とストリートファニチャー

【視察内容】

犬山市の文化芸術振興に対するニーズは高いものの、満足度が3%程度と非常に市民からの評価は極めて低い。文化会館大ホールも10数年後には閉館の方向性が当局から示されているが、本当にそれでいいのかという問題意識がある。

そこで、今年度の民生文教委員会では、市で現代美術館を建設し、すでにまちの象徴ともなっているとされる十和田市（青森県）の十和田市現代美術館を視察した。

十和田市は150年ほど前から開拓が進んだ比較的新しいまちで、奥入瀬丘陵を活かした観光やにんにく、ごぼう、長芋など農業が盛ん。

十和田湖が有名だが、2005年に両市町が合併する前は十和田湖町にあり、十和田市には目立った観光資源はなかったとのこと。

そこで現代美術館を建設しようということになったようだが、議会ではかなりスッタモンダあったとのことだった。

それもそのはず、美術館単体で約15億円、周辺の公園や街路へのオブジェ展示なども含めて合計24億円もの事業。簡単に通るはずがない。

しかも、財源の9割は六ヶ所村に原子燃料サイクル施設があることなどから来る原発立地交付金とのこと。

様々な条件が重なって、相当な思い切った政治決断があっただけのものだということがわかった。

実際に見てみると、これがまた楽しい。四角いキューブを組み合わせたような構成になっていて、どこを見ても建築と展示物が一体になったような展示がされている（基本的に常設）。

市民利用が少なくなっているという課題はあるようだが、約1億8000万円をかけて展示棟を増設し、指定管理者を中心に教育関連の独自事業に取り組むなど課題解決にも意欲的に取り組んでいる。

【犬山市への提言】

これと同じものを犬山に…ということにはならないが、発想の幅が広がった。十和田市の市街地の中心に異様とも言える建築物とオブジェが点在する光景はそれ自体が非日常感に溢れ、見る者をワクワクさせる。公共施設だから手堅く無難に…ではなく、このような遊び心を取り入れることが必要と感じた。